

新基地建設反対名護共同センター ニュース

米軍オスプレイの墜落事故、政府発表は二転三転！主権はどこに？

定例「県民大行動」に 怒りのハ○○人余

十二月二日にオール沖縄会議主催で、辺野古のキャンペーンシブワブゲート前で定例の市民集会「県民大行動」を開催しハ○○人余が参加しました。オスプレイの屋久島沖墜落事故について、「墜落」「不時着水」と二転三転した政府対応に、稲嶺進共同代表は「民主主義独立国家と言えない思考停止」と批判し、子や孫達のために頑張ろうと挨拶しました。

赤嶺政賢衆議院議員は、墜落事故によって日本と米国の関係が如実に表されたとして、「米国が安全だと言ったら日本は受け入れる。米軍の運用について日本は一言も発言してはいけない。これが今の日米関係だ。私達の団結でオスプレイの飛行を阻止しよう」と強く呼び掛けました。

宜野湾からの参加者は、「昨日も家の近くで飛んでいた。米軍はやりた放題！それを許している日本政府は絶対に許せない。政府のだらしない姿勢が根本にある。憤りを感じる」と話します。

うるま市在住の参加者は「開発段階から墜落事故を繰り返してきた欠陥機なのに、事故が起きた後も飛んでいる。県民の安心安全は軽く見られている」と怒りをぶちまけました。



安保破棄中央実行委員会

沖縄の軍事要塞化の視察・現地と交流

安保破棄中央実行委員会が12月8日(金)～10日(日)に軍事要塞の視察と、「戦争国家」を許さない基地闘争全国交流集会を開催しました。

初日は辺野古新基地建設の現状を視察し説明を受けました。名護共同センター代表の具志堅徹さんは、「沖縄県民と全国が連帯して闘うと必ず新基地建設は止められる」と強く訴えました。



2日目は安保破棄中央実行委員会、岸田大軍拡と闘いの課題として、安保3文書改定で「専守防衛」から「反撃能力」となり「敵基地攻撃能力保有」や辺野古新基地建設強行のための「代執行」の問題、「台湾有事」と沖縄戦場化の危険性等を報告。

東京代表の方は、日米政府は2015年5月12日に東京横田基地に特殊作戦部隊が運用する「CV-22オスプレイ」の配備を発表した。周辺自治体のすべてが反対しているのを無視した一方的な通告だったと報告しました。

山口県平和委員会の方は、「第一撃の基地」から4軍の出撃かつ兵站の

拠点へと岩国基地の大拡張、諸施設の整備と機能の格段の強化、極東最大の航空基地へと変貌していると報告。

沖縄県統一連事務局長は、基地の工事を引き受ける全国防衛協会連合会や沖縄防衛協会の組織等について報告があり、全国的に軍事要塞化が加速していることが確認されました。

3日目は石垣島の軍事要塞化の現場を視察しました。



9年間続く早朝宣伝 照屋義美副知事が 参加することも 与那原島ぐるみ会議

我謝孟範町議に話を伺いました。

与那原島ぐるみ会議は、故翁長雄志県知事が誕生した二〇一四年の九月から、与那原交差点で毎週木曜朝七時から八時まで宣伝し、九年以上になります。

参加者は六人、八人で、大きな選挙になると近所に住む照屋義美副知事も参加してくれると言います。時折ジューズなどの差し入れもあります。

昨年の那覇市長選挙、オール沖縄の市長候補の翁長雄治氏の応援に、那覇市の一日橋交差点まで出かけ宣伝行動をしてきました。

来年九月には一〇周年を迎えるので、以前、那覇の松川・大道島ぐるみ会議の宣伝行動の写真が「琉球新報」に載ったので、与那原の一〇周年記念も同じように掲載してもらえようようにしたい、と抱負を語っていました。

